

国際発音記号 (International Phonetic Alphabet) に関する概要

発音記号 (phonetic symbol) は音楽でいうところの楽譜です。そして、発音記号で表記される情報を正しく理解して読み取るリテラシー能力は、英語のみならずあらゆる言語の学習においてアドバンテージになります。このドキュメントでは、現時点でもっとも広く認められている発音表記の手段である IPA (国際発音記号) に関する概要を説明しています。

IPA の利点

実際に運用される音を一般化してまとめる手段である IPA は、「世界中の言語の発音をひとつのものさしで記述、比較したい」という昔の言語学者たちの強い欲求、探求心の結晶として完成しました。

そして、ひとつのものさしでさまざまな言語を比較できるという点は IPA の優れた点のひとつであり、この恩恵は言語学習に大いに役立てることができます。母語や自分がすでに習得している言語と新たに学習する言語の音的特徴の直接比較、これまで存在を認知していなかった、その人にとってまったく新しい音素の認識などは、IPA を活用することで誤差なく、正確に達成できます。これは、「リピートアフターミー」の手法でネイティブのお手本をまねるといった、雰囲気的手法ではまず達成できません。辞書にかいてある単語には必ず IPA 表記の発音記号も付記されていますから、IPA を読める人であれば、辞書に書いてどんな単語でも、ネイティブのお手本などを使用せずに正しく発音できるようになります。

たとえば、純粋な日本人に「母音とは何ですか」と質問すると、おそらく「あいうえお」の 5 つが母音であると回答すると思います。そして、「あいうえおのいずれにも該当しない母音はたくさんある」という事実をクリアに認識している純粋な日本人はほとんどいません。母音の音色は、口の開閉度、唇の形状、舌の位置という 3 つの要素のブレンドで決まります。これは IPA を学ぶことで認識できる事実であり、母音とは「あいうえお」のことです、という認識からさらに上位のメタ視点で母音の全体像を理解できるようになります。

子音に関しても同様に、五十音順の「あかさたなはまやらわ」で表現される子音の羅列には音声学上の意味がまったくないこと、日本語の子音は閉鎖音 (ア行)、破裂音 (カ行、タ行)、鼻音 (マ行)、摩擦音 (サ行、ハ行) などの大枠のカテゴリで分類できることを、IPA を通じてメタ視点で把握できます。